中学部の実践

目　次

1　音楽科「リズムを感じよう」 ---------- 47
中学部うきうきグループ　　脇博美　初村多津子　内倉広大　中村雄治郎

2　保健体育科「健康な身体」 ---------- 50
中学部１年生　　前潟久美子　脇博美　中村雄治郎

3　作業学習「ふようまつりに向けて製品を作ろう」 ---------- 53
中学部木工班　　甫立将章　中村雄治郎　北園菜保美

4　数学科「合わせてみよう，分けてみよう」 ---------- 56
中学部Ａ－２　　初村多津子　北園菜保美

5　自立活動「身体を動かそう」 ---------- 59
中学部３年生　　黒木里香　内倉広大　北園菜保美

6　国語科「説明文を読もう」 ---------- 62
中学部Ｂグループ　　内倉広大　前潟久美子

7　作業学習「ふようまつりに向けて製品を作ろう」 ---------- 65
中学部窯業班　　山之口和孝　内倉広大　前潟久美子

中学部　音楽科

題材名「リズムを感じよう」

授 業 者：脇 博美　初村 多津子　内倉 広大　中村 雄治郎
対　　象：うきうきグループ　男子６人　女子３人
実践期間：平　成　２　４　年　６　月　～　７　月

Ⅰ　授業の立案

１　題材の全体目標

(1) いろいろなリズムの特徴を感じ取りながら，身体表現ができる。
(2) リズム創作活動を通して，友達と一緒に楽しく活動することができる。

２　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	１　リズム模倣，リズム当てゲームをする。	【習得型】 活動に対する見通しをもち，楽譜に対しての関心を高めることができるようになる。	1.5
	２　音符や休符について知る。 (1) 音符や休符の種類，長さの違いを知る。 (2) 色楽譜に合わせて，リズム演奏をする。	【習得型・活用型】 色楽譜との対応ができるようになることで，音符記号への関心を高めることができるようにする。	1.5
二	３　個人でリズム創作をする。 ４枚のリズム・カードを組み合わせて，４拍のリズムを作る。	【習得型・活用型】 リズム・カードを用いて，身体表現ができるようにする。	1.5
	４　グループでリズム創作をする。 ６拍のリズムを作り，お互いに発表したり，全員で表現したりする。	【活用型】 リズムの組み合わせの面白さを感じ取ったり，共有したりできるようにする。	1.5

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

１　授業担当者で行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
リズムと色楽譜を対応させて，リズムを手拍子で表現することができる。	Ａさんは，４分音符の手拍子はできるが，８分音符になると難しい。 （６月８日）	８分音符を表現する際には，手拍子のみならず，動かしやすい部位である肩や頭など体のどの部分を用いて表現してもよいことにする。 （７月４日）	８分音符を表現する体の部位を増やすことで，楽しみながら，リズムと色楽譜を対応させて自分なりに表現することができた。 （７月12日）

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（黒木教諭：5／31実施　自立活動授業研究会「身体を動かそう」における教材・教具の意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
発声練習の際に息の吐き方を意識して取り組むことができる。	Bさんは，息を一定の強さで長く吐き続けることが難しい。（5月30日）	自立活動授業研究会での視覚的に理解しやすい指導方法の意見交換を受け，発声練習の際に息を一定の強さで長く吐くことを意識するために短冊状のティッシュを準備した。（6月1日）	短冊状のティッシュを用いることで，長く息を吐き続けることを意識しながら，取り組むことができた。その後の発声練習でも息が長く続いたことで，うれしそうな表情をしていた。（6月1日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
友達の様子を見ながらリズム模倣をすることができる。	Cさんは，教師のモデルを見てはいるが，参加することが少ない。自分がモデルになったときは，友達の反応を楽しんでいる。（6月8日）	友達同士でモデルになることで学ぶ機会が多くなるという意見をもらった。そこで，モデルとなる機会を設定し，友達をより意識できるようにした。（7月4日）	Cさんは，自分から手を挙げて，自分に当ててほしいとアピールしたり，友達の様子を見て取り組んだりする姿が見られるようになった。（7月12日）

Ⅲ　授業と生徒の変容

1　授業の変容

今年度は，昨年度の取組を発展させて，音符の種類や長さも取り入れた音符記号や色楽譜を対応させながら身体表現をする活動を行った。しかしながら，色楽譜を用いての手足を使ったリズム打ちの学習場面では，色楽譜を意識して活動することに苦戦している生徒の姿が見られた。原因として，色楽譜のみでは，音符の種類の違いやリズムが複雑になると分かりにくくなったり，色楽譜を目で追いながら体で表現することが難しかったりするのではないかと考えた。そこで，美術の担当と連携し，美術の時間に描いた自分の手形や足形を音符に見立てたリズム・カードを作成した。生徒のリズム・カードに対する関心は非常に高く，友達と一緒にリズムを組み合わせる姿が見られた。さらに，個人及び友達との創作活動を行うことで，自分が納得するリズムになるように何度もリズム・カードを並べ替えたり（写真3-1），完成したリズムを全員で表現することで楽しさを共有したり，活動に積極的に取り組む姿が多く見られるようになった。

写真3-1　カードを入れ替える

Dさん

2　生徒の変容

Ｅさんは，教師や友達のモデルを手掛かりにすることで，様々な場面で学びを深めていく姿が見られる。しかし，手掛かりとしての色楽譜やリズム譜を見ることよりも近くでモデルとなっている教師や友達を見ることが多く，自分から教材・教具に関わることができる場面でも相手からの関わりを待ってしまう傾向にあった。原因としては，楽譜の見方や読み方が分からないため，教師や友達のモデルを頼ってしまうのではないかと考えた。そこで，リズム・カードの見方を個別に教える場面を設定した。次に，どの組み合わせであれば，表現しやすいのか実態把握を行い，繰り返し練習を行った。さらに，友達に発表する場面を設定し，一人で発表できたことを称賛することで，自信をもって取り組むことができるようにした。

最初のうちは，リズム・カードを意識することが，なかなかできず，友達の動きに合わせて表現する姿が多く見られたが，リズム・カードを自分で操作して並べ替えたり，友達と一緒に表現したりする活動を通して，本題材の終わりには，教師の指さしのみで，リズム・カードを手掛かりに一人で発表することができるようになった（写真3-2）。

写真3-2　発表場面の様子

Ⅳ　活用場面の様子

中学部では，「学部の歌」を選曲し，朝の会や学部で活動する際に歌っている。授業研究会における「学部の歌も手拍子をしながら歌う曲を選曲したら，リズムを表現することをさらに身近に感じることができるのではないか。」という意見を参考に学部で検討し，歌に合わせて手拍子ができる「気球に乗ってどこまでも」の歌に２学期から取り組むことにした。手拍子は，表出言語の少ない生徒にとっても表現手段の一つになっており，表情豊かに活動に参加している。

初めは，そろわなかった手拍子も継続することで，日に日にそろうようになってきた。また，手拍子に加えて，生徒の実態に応じてカスタネットやタンブリンなどの楽器を使って表現することにした。そのことによって，リズム表現の幅が広がり，より楽しむ姿が見られるようになった（写真3-3）。

写真3-3　カスタネットをたたくＣさん

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

本題材で使用した自分の手形や足形を音符に見立てたリズム・カードは，生徒たちにとって分かりやすい教材で，他の題材でも有効だった。今後は，個の実態に応じられるように更に工夫していきたい。

授業研究会を重ねる中で実感しているのは，音楽科は，学校の教育活動全体において様々に関係する教科であるということを再認識したことである。他教科や生活場面との関連性の深さを確認したことで，「この場面で，音楽で学習したことが生かされるのではないか。」という意見のやり取りが，日常的に他の職員と交わされることは，生徒の学びの深まりに確実に有効であると考える。

今年度，美術科や朝の会などと関連をもたせた授業展開を行ったが，今後は，他教科とも関連させた年間指導計画の在り方について，考えていきたい。

中学部　保健体育科

題材名「健康な身体」

授 業 者：前潟 久美子　脇 博美　中村 雄治郎
対　　象：中学部１年　　男子４人　女子２人
実践期間：平 成 ２ ４ 年 ５ 月 ～ ７ 月

Ⅰ　授業の立案

１　題材の全体目標

自分の日常生活の様子や健康の状態を知ることで，自分の身体に関心をもち健康に気を付けることができる。

２　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	1　オリエンテーション 保健学習の内容について知る。 2　健康な身体～睡眠～ 自分の睡眠時間を確認し，適切な睡眠時間を知る。	【習得型】 現在の睡眠の状況を把握し，健康な身体と睡眠の関係について知ることができるようにする。	1.5
二	3　健康な身体～運動～ (1) 学校や家で実践している運動を発表する。 (2) 運動の効果について考える。 (3) 簡単な運動に挑戦する。	【習得型・活用型】 現在の運動の状況を把握し，健康な身体と運動の関係について知り，家庭や休み時間に，自ら運動に取り組むことができるようにする。	1.5
三	4　健康な身体～食事～ (1) 給食の様子をビデオで見る。 (2) 食べることの大切さや食べ物の働きを知る。 (3) 給食の献立を基に，食品群を赤，黄，緑のグループに分類し，栄養素について知る。	【習得型・活用型】 健康な身体と食事の関係について知り，基本的な知識や態度をフードタイムで活用することができるようにする。	1.5
四	5　健康な身体～睡眠・運動・食事(夏休みに向けて)～ (1) 睡眠・運動・食事で大切なことを確認する。 (2) 夏休みの計画を立てる。	【活用型】 夏休みに向けて，睡眠・運動・食事について目標や計画を立てる。	1.5

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

１　授業担当者で行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
健康な身体と睡眠の関係について知ることができる。	Ａさんは，ワークシートを用いながらの学習には意欲的に参加する姿があまり見られない。 （５月17日）	ワークシートの情報量の多さが原因であると考えた。そこで，スライドを使用して情報量を調整しながら課題を提示する。 （６月１日）	画面に集中し，教師の話をよく聞いており，クイズ等を取り入れたところ，友達と一緒に相談して答える姿が見られた。 （６月１日）

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（内倉教諭：5／17実施　国語科授業研究会「絵を見て話をしよう」における環境設定の意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
献立を基に，自分で栄養素ごとに食材を分類することができる。	Ｂさんは，課題に対して答えることが難しくなると，あきらめて手遊びをする姿が見られた。（５月17日）	国語科の授業研究会で座席配置の工夫が検討されたことを受け，授業時の座席配置の変更を検討する（馬蹄形の配置）。（５月17日）	友達の様子を見たり，友達に相談したりして，栄養素ごとに分類したり，ワークシートに書き込んだりすることができるようになってきた。（６月21日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
最後まで静かに話を聞くことができる。	Ｃさんは，教師が話をしている途中で答えを言ったり，質問をしたりするので，話を遮り，周りの生徒が答えることができない。（６月21日）	授業の最初で，授業の約束事を教師と一緒に確認する。（６月21日）	Ｃさんが話し始めたときに，「約束だったよね。」と一言言うと，意識して気を付けようとする姿が見られた。すると，他の生徒が意見を発表したり，発問に対して答えたりする場面が多くなった。（７月９日）

Ⅲ　授業と生徒の変容

1　授業の変容

生徒は，小学部や小学校での保健の学習を通して，睡眠・運動・食事について基本的なことは分かっており，質問をすると答えることができる場面が多く見られた。しかしながら，自分の日常の生活を振り返り，自分の健康と睡眠・運動・食事の関係を結び付けて考えることは難しいようであった。そこで，次の２点を中心に授業改善を行った。①スライドや紙芝居などの視覚的教材を用いて活動を行い，興味・関心をもって授業に参加できるようにすること，②日頃の給食の様子等を撮影し，導入時に視聴することで，自分の姿をＶＴＲで確認し，自分の身近なこととして考えることができるようにすることである（写真3-4）。授業改善の結果，説明したことを理解できているかどうかを確認するためにスライドでのクイズを取り入れたところ，積極的に答え，楽しそうに取り組む姿が見られるようになった。また，ＶＴＲを再生し，自分の食事の様子が流れると，その様子をじっと見ながら，授業の目的を強く意識できるようになった。日常生活の中でも，自分から「家に帰って運動する。」と発表するなど，自分の生活と少しずつ結び付けて考えることができるようになってきた。

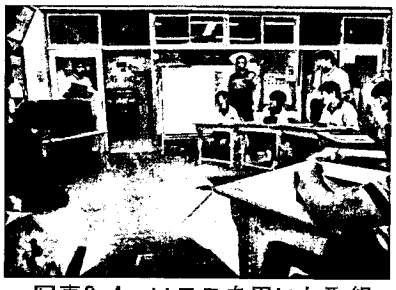

写真3-4　ＶＴＲを用いた取組

2　生徒の変容

Ｃさんは，様々な場面で積極的に意見を発表したり，質問をしたりすることができる。しかしながら，Ｃさんは教師が話をしている途中に応答したり，質問をしたりすることがあるので，学習の流れを中断したり，十分に学習内容を理解していなかったりする姿が見られた。また，早く質問をしたいという気持ちが強いために，最後まで話を聞いていないことがあった。そこで，授業研究会での意見を参考にし，①「話は最後まで静かに聞く。」，②「質問があるときは，手を挙げて質問をする。」という「授業の約束事」を決めて，授業の最初で一緒に確認するようにした。また，Ｃさんの話す力を生かすことができるように，二人組での学習を取り入れることで，友達にアドバイスをしたり，友達の意見を聞いたりしながら活動することにした。さらに，活動したことを発表する場面を設定した。その結果，Ｃさんは，教師の話を最後まで聞いてから活動し始め，友達と相談しながら栄養素を分類することができる等，学習の課題を理解して取り組む姿が見られるようになってきた。

Ⅳ　活用場面の様子

食事の大切さや栄養素について学習したことを生かし，総合的な学習の時間（フードタイム）ではバランスのとれた弁当作りを行った。まずは，自分が今まで食べたことのある弁当の中身を振り返り，自分が作ってみたい料理を発表し，主食，主菜，副菜，汁物・飲み物などのバランスを考え，栄養面で何が多いか，何が足りないかを話し合った。自分が好きな料理ばかり選ぶのではなく，教師の言葉掛けや友達の意見を聞きながらメニューを決めて，実際に作ることができた（写真3-5）。

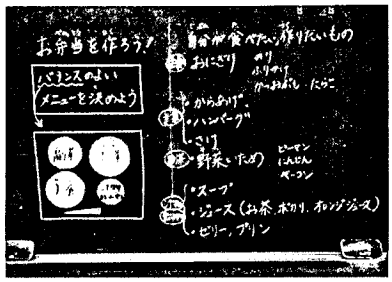

写真3-5　栄養バランスを考えたメニュー

また，Ｂさんは，給食時に三角食べができなかったり，よくかまないで食べたりする姿が見られた。好き嫌いも多く，「野菜食べない。」と発言することも多かった。食事で気を付けること等，学習したことを一つずつ確認することで，「よくかんで食べてる。」と自分の様子を教師に報告したり，「次はこれ！」と言って食べる物の確認をしたりする姿が見られるようになってきた（写真3-6）。

写真3-6　Ｂさんの給食の様子

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

保健学習は，学習したことをすぐに実生活に生かすことができる。そのためには，生徒が身近に感じることができるものを取り上げて学習を進めることが大切であることを感じた。また，今回は家庭との連携が不十分であった。並行的設定として，家庭との連携を密にすることで，生徒がもっと生活に結び付けて考えることができたのではないかと考える。授業研究会では，様々な視点から授業改善のアイデアをもらうことができ，授業に生かすことができた。また，生徒一人一人の成長に気付くことができ，生徒と関わることの喜びや生徒の成長に関わっていきたいという気持ちが今まで以上に強くなった。

中学部　数学科

題材名「合わせてみよう，分けてみよう」

授 業 者：初村　多津子　　北園　菜保美

対　　象：Ａ－２グループ男子２人女子２人

実践期間：平 成 ２ ４ 年 ６ 月 ～ ７ 月

Ⅰ　授業の立案

1　題材の全体目標

(1) 10までの数字カードを順番に並べたり，前後の数字を表したりすることができる。

(2) 具体物や半具体物の操作を通して，10までの集合数の二つの個数を合わせた個数や二つに分けた個数を数字や数詞で表すことができる。

2　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	1　10までの数字カードを順番や逆の順番に並べたり，数字の前と後の数字を数詞や数字で表したりする。(順序数や数系列の理解)	【習得型→活用型】 数の大きさや数系列といった前題材で学習したことを生かして課題に取り組むようにする。	3
	2　友達に飴玉やおはじきを１個ずつ，２個ずつ配る。 3　１個，２個増えた数を答える。	【習得型】 言葉の理解だけでなく，具体的な操作を通して，基準となるものの数が増えることを知ることができるようにする。	
二	4　10個のおはじきを二つのコップに分ける。 (1) 二つのコップを縦横に振って，様々な数に分かれることを知る。(数の分解) (2) 片方のおはじきの数を数えて，もう片方のコップに入っている数を当てる。(補数)	一単位時間レベルにおける 【習得型→活用型】 (1) 教師と一緒に確認しながら操作の方法や答えの導き方を学ぶ。 (2) 個別課題に取り組むとき，教師と一緒に取り組んだ方法を使って，一人で課題に取り組む。	10
	5　二つに分かれた具体物を合わせた数を数字や数詞で表す。(数の合成)		

Ⅱ　授業実施後の改善の経過(授業記録の一部を抜粋)

1　授業担当者で行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
10までの数字カードを順番に並べることができる。	Ａさんは，１から10までの数唱はできるが，数字カードを順番に並べると２の次に８を並べるなど混乱している様子が見られた。　（６月８日）	生活でも活用できるカレンダー等を手掛かりにする。提示されたカードを声に出して数唱を行い，混同して覚えている数字の形を覚える。　（６月14日）	数唱と同時にカードを１枚ずつ確認しながら順番に並べている姿が見られた。分からなくなると教室のカレンダーを探して確認していた。　（６月21日）

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（甫立教諭：６／21実施　木工班作業学習授業研究会「販売に向けて製品を作ろう」における「学び」の機会を参考）

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
個別課題に取り組むとき，教師と一緒に取り組んだ方法を生かして一人で課題に取り組む。	Ｂさんは，操作方法や答えの導き方は理解しているが，隣の友達の解答を見て，自分の解答と異なると自分の解答が正答でも書き直してしまう。（６月21日）	Ｂさんが自分の役割を理解しているにも関わらず，教師の指示を待つ姿から，Ｂさんの主体性を引き出すための教師の言葉掛けのタイミング等の意見が出された。個別課題に取り組むときの友達との机間の距離を広げることを検討。さらに，正答のプリントを準備しておき，自分で答え合わせができるようにした。（６月21日）	個別課題を友達と別の問題にし，自分で導き出した答えを書くように伝えた。導き出し方が分かり，正解できると，自信がもて，一人で課題に取り組む姿が見られた。（７月３日）

3　授業研究会（授業者）として行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
半具体物を操作して二つの数を合わせた数を導き出すことができる。	答えを導き出す方法は理解できているが，おはじきを操作している間に，取り組んでいた課題がプリントのどこだったか分からなくなる様子が見られた。（７月５日）	Ａ４サイズのプリントに６問の課題数が，生徒にとって多いことや桜形のおはじきよりも四角のタイルの方が数を理解できるのではないかという学びの方法について意見が出された。（７月12日）	１枚に一つの課題を設定することで，授業の目標に焦点を絞って指導することができた。 算数セットの教材の四角ブロックは，操作しやすく，補数の理解にも効果的であった。（７月18日）

Ⅲ　授業と生徒の変容

1　授業の変容

本グループの生徒は，10までの数において数唱はできるが，示された数字カードと同じ数だけの物を取り出すことが難しかったり，数唱の最後が集合数を表していることの意味が分からずに混乱していたりするなど数の大きさの理解に課題のある生徒が多い。そのため，「増える」や「合わせる」，「分ける」という言葉の理解を助けるために，具体的な操作を通して数図や数字に置き換えられるように学習を行った（写真3-7）。また，一単位時間の授業の中で，習得と活用が行き交う授業を展開することで，生徒自身が知識・技能を確実に習得し，習得した自分なりの学び方や答えの導き方を駆使して課題に取り組む姿が見られるようになった。授業研究会を通して，

写真3-7　具体的に操作して学ぶ姿

生徒の理解に応じた適切な情報量や教材・教具について意見をもらうことができた。具体的には，じっくり生徒が課題に取り組むために，教師の言葉掛けや見本提示を生徒の様子を見ながら，タイミングを図って行うことや具体物を使って操作するときの問題の提示の仕方や問題量など改善を行った。問題の数を精選することで，生徒がじっくり課題に取り組み，「できた。」という達成感を得て，「次もやってみたい。」という新たな課題に取り組む姿が見られるようになってきた。

2　生徒の変容

Ａさんは，教師の質問を聞いて積極的に発表したり，これまで学習した内容を想起したり，具体物を操作しながら学習することを楽しみにしたりしている。しかし，課題に対する理解が十分でなかったり，自分の導き出した解答が合っているのか間違っているのか分からないままにしてしまったりすることが多い。そこで，自分の課題が一通り終わったら，教師が正答か誤答かの判断をするだけでなく，なぜこのような答え(考え)を出したのか本人なりに説明をすることで，生徒自身が自分の考え方を整理し，理解を深めるようにした。Ａさんが言葉だけでなく，操作しながら説明を行うことで，教師も生徒がどこでつまずいているのか，どの程度理解が進んでいるのか把握できた（写真3-8)。Ａさん自身は，自分の考えを説明する中で，間違いに気付き，正答を導き出すことができていた。

写真3-8　自分の考えを説明するＡさん

Ⅳ　活用場面の様子

本題材の学習当初は，１から10までの数字を順番に並べることは難しい様子が見られたが，学習を通して数唱と数字が一致してくるようになった。そこで，本題材で習得した知識や技能を活用できる場面として他の教科等で活用する段階的設定で実践を行った。中学部の体育の学習では，ビブスを着用してチームごとに色別に分かれたり，ビブスの番号順に並んだりして活動することが多い。これまでは，自分の番号が５以上の数字なら前後を判断できずに教師の言葉掛けを受けて整列していた。しかし，９人編制のティーボールの学習でチームごとに整列する場面では，「数学で勉強したよ。」という教師の言葉掛けに友達の番号から前後を判断して順番に並んだり，友達に並ぶ場所を教えたりしている姿が見らるようになった（写真3-9)。

写真3-9　ビブスの番号を手掛かりに並ぶことができた姿

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

授業研究会を通して，授業改善の視点を基に複数の教員から具体的な改善策の意見をもらうことができ，授業改善ができた。また，学んだことが一つの授業に留まらず，様々な場面で活用できることを見い出すことができた。しかし，生徒の様子を追うあまり，授業の目標の妥当性や学習内容の改善を語り合うことは，自分自身難しかったので，今後も授業研究については研鑽を積み重ねていきたい。

中学部　作業学習

単元名「ふようまつりに向けて製品を作ろう」

授 業 者：甫立 将章　中村 雄治郎　北園 菜保美
対　　象：木 工 班　男子３人　女子３人
実践期間：平 成 ２ ４ 年 ７ 月 ～ １ ２ 月

Ⅰ　授業の立案

１　単元の全体目標

(1) ふようまつりに向けた製品作りを通して，できるようになっていることを実感し，自分に与えられた役割に責任感をもって取り組むことができる。

(2) 協同作業に伴う分担作業を通して，集団の中での自己の役割意識を高め，積極的に働きながら，友達と協力して良品を作ることができる。

２　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	1　ふようまつりについて知る。 (1) 期日を知る。 (2) 当日までの流れや販売するものを知る。	【習得型】 作業学習に対する見通しをもたせる。	3
二	2　手順を覚え，作業に慣れる。 (1) 作業工程の手順を覚える。 (2) 作業工程に必要な道具や材料の準備をする。 (3) 報告や相談の方法を知り，実行する。	【習得型・活用型】 一学期に習得した技能や態度を活用できるようにする。	12
三	3　丁寧に効率よく作業をする。 (1) 良否の確認を自分で行う。 (2) 効率よく製作するための方法を考える。 (3) 自分を振り返ったり，友達を参考にしたりする。	【活用型】 習得した技能や態度を活用しながら，自ら考える機会を意図的に増やす。	30
四	4　ふようまつりの準備をする。 (1) 販売の準備をする。 (2) 販売活動をする。 (3) 販売の反省をする。	【活用型】 製品を販売することで，成就感や達成感を味わうことができるようにする。	9

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

１　授業担当者で行った改善

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
自分から報告・連絡・相談を行う。	Ａさんは穴開け作業を行う際，材料を補助具に取り付けるのに手間取り，困った様子で近くにいる教師をその場でじっと見ていた。 (10月４日)	Ａさんが他の学習場面でＶＯＣＡを活用していることを授業担当者から聞き，木工班でもＶＯＣＡを使用することにした。 (11月29日)	Ａさんはしばらく困った表情をしていたが，ＶＯＣＡを使用したことで，担当者に自分の思いが通じ，笑顔を見せた。 (12月13日)

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（初村教諭：10／30実施　国語科授業研究会「なにしてる？」における学びの機会を意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
作業に見通しをもち，最後まで集中して作業に取り組むことができる。	Ｂさんは材料の研磨作業の際，どこまで磨いたら終わりか判断に困り，磨き過ぎたり，困った様子でじっと教師を見ていたりする様子が見られた。 （10月４日）	国語科の授業研究会で友達の様子を手掛かりに自分の行動に自信をもつＢさんの姿から，Ｃさんと一緒に作業を行うようにした（タイマーを併用）。 （11月１日）	ＢさんはＣさんの作業を様子をまねて，自分から材料に触って研磨の状態を確認し，納得した表情で自分から報告するようになった。 （11月12日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
自分の役割に責任をもって最後まで取り組むことができる。	Ｄさんはすぐに手を止めて休んだり，キョロキョロとよそ見をすることが多く，教師から何度も注意を受けている姿が見られた。 （10月30日）	作業学習で身に付けさせたいことを具体的に示したらどうかという意見をもらった。そこで，作業学習の手引（達人への道）を作成した。 （11月28日）	Ｄさんは授業前に手引きを声に出して読み，格好よく働く自分の姿を想像しながら作業に取り組み，自分の仕事を最後まで集中してやり遂げた。 （12月13日）

Ⅲ　授業と児童生徒の変容

1　授業の変容

「ふようまつり」を意識することで，自分たちが作った製品を多くの人に買ってもらいたいという気持ちから意欲的に作業に取り組んでいた。しかしながら，授業の様子をＶＴＲや『豊かな「学び」を見つめる指標』で振り返ってみると，報告・連絡・相談や安全面などについて，繰り返し指導をしているにもかかわらず，定着が図られていないことが分かった。また，協同作業における自他の役割を意識している様子もあまり見られなかった。

そこで，授業研究会で意見をもらったり，授業担当者間で原因を分析したりする中で，改善策として，①木工班として理想の姿を具体的（作業学習の手引）に示す方法（教材・教具，自分とのかかわり），②自分や友達ができていることを認める機会（友達，自分とのかかわり）が挙げられた。この二点を中心に改善を進めていった結果，生徒自身が木工班の一員として理想の姿を目指すようになり，同じことを繰り返し指導する場面が減った（写真3-10）。具体的な姿を示したことにより，自分の姿を客観的に捉えるようになり，「できている。」という自覚が生まれ，生き生きと作業に取り組む姿が見られるようになった。また，波及効果として，うまくできている友達の姿を見て，積極的にまねようとする生徒が見られるようになった。さらに，授業担当者間で指導の視点が共通理解され，一貫した指導ができるようになった。

写真3-10　作業学習の手引を読む姿

2　児童生徒の変容

Ｃさんは，自分が提案した新製品を多くの人に買ってもらいたいという思いがあり，製品の完成を楽しみにしていた。１学期の作業学習や他の学習活動の様子から，Ｃさんには手順表等の見通しをもつことができる手立てが有効であることが分かっていたため，椅子の組立に関しても手順表を用いることにした。しかしながら，手順表を手掛かりに椅子を組み立てようとする姿は見られたものの，質問や確認を繰り返し，うまくできないことにいらだった言動が見られ，意欲の低下が感じられた。そこで，手順表の写真を部品の向きや配置が分かりやすいものに変更したり，重要なポイントは丸や矢印で示したり，説明文を簡潔にしたりするなどの改善を行った。すると，手順表と実際の部品をよく見比べ，つぶやきながら自分なりに確認して作業に取り組むようになった。手順表を手掛かりに生産目標数の椅子を一人で完成させた日は，喜びを隠せない様子で目を輝かせながら友達や担任に製品の説明をする姿が見られた。また，製品の完成について，他の班員の頑張りを称賛する様子も見られた（写真3-11）。

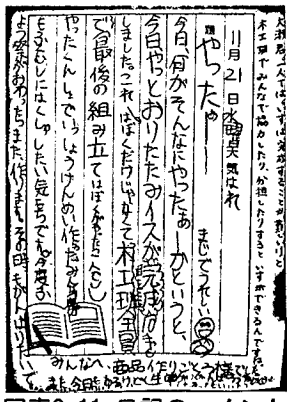

写真3-11 日記のコメント

Ⅳ　活用場面の様子

Ｃさんの個別の指導計画には，保護者，本人の願いを受けて，「より良い方法を考え，実行する力」を高めることが挙げられていた。そこで，作業学習では上述した「手順表を手掛かりに作業を進める取組」を，美術科では「対話を通して教師が方法を提案し，どの方法で描くか自分で決める取組」を，保護者と連携して家庭においても並行して行うことにした。

写真3-12　美術作品

美術科における４月当初のＣさんは，イメージしたことをどのような手順，方法で表現したらいいか分からず，授業が近づくと家庭でパニックになり登校できないことがあった。しかし，教師と対話をしながら描きたいものの大きさ，配置，色などを段階的に自分で決めながら，イメージに近づけていくことで，次第に美術に対する苦手意識は感じられなくなり，友達や教師にうれしそうに作品を見せたり，美術で取り組んだことを家族で話題にしたりするようになった（写真3-12）。また，取組を続ける中で，作品に対する思いを積極的に伝えるようになり，授業に楽しんで参加している印象が強く感じられるようになった。

このように，「より良い方法を考え，実行する力」を高めるために複数の教科等で連携して取り組むことで，意図的に設定した活用場面以外でもその力を発揮するＣさんの姿が見られるようになった。

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

本実践を通して，生徒の姿から内面を想像することの重要性や，教師が互いに持っている生徒の姿や手立てなどの情報，アイデアを共有することで授業改善のヒントが生まれること，必要に応じて教科等の枠を越え，並行的に指導していくことにより生徒の豊かな学びをはぐくむことにつながることなど，多くのことを学ぶことができた。今後も生徒の「できた。」，「わかった。」，「やってみたい。」が増えるような授業の在り方を追究していきたい。

中学部　自立活動

活動名「身体を動かそう」

授 業 者：黒木 里香　内倉 広大　北園　菜保美
対　　象：中学部３年生　男子４人　女子２人
実践期間：平成 ２４ 年　４ 月 ～ １ １ 月

Ⅰ　授業の立案

1　活動の全体目標

(1) 自分のよさや困難に気付き，その良さを伸ばそうとしたり，困難を改善しようとする意欲をもったりすることができる。

(2) 自分の課題となる活動を理解して，意欲的に取り組むことができる。

2　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	1　自立活動の学習について知る。 （オリエンテーション） 2　自分の得意なことや苦手なこと，一人ですることが困難なことについて考え，発表する。	【習得型】 ・　自立活動の目的や学習について見通しをもち，自分の良さや苦手なこと，友達の良さや困難に気付く活動	1
二	3　自分の学習課題となる活動に取り組む。 ・　手指の巧緻性を高める活動 ・　筋力をつける活動 ・　言葉の不明瞭さを改善する活動 ・　友達や教師と関わりをもちながら取り組む活動 4　自分のやりたい活動に取り組む。	【習得型】 ・　いろいろな活動を経験し，身体の動かし方や息の使い方，人との関わり方を知る活動 【活用型】 ・　箸を上手に使って食べること ・　明瞭に発音して会話を楽しむこと　など	16
三	5　学習の振り返りをする。 ・　４月と比べ，自分が上手にできるようになったことを発表したり，友達の前でやってみたりする。	【習得型・活用型】 ・　自分の成長を理解し，次の目標を立てたり，生活に生かそうとしたりする意識を高めること	1

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

1　授業担当者で行った改善

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
身体の状態が分かり，身体を動かそうとすることができる。	Ａさんは身体が硬く，肘を伸ばしたり，肩を大きく動かしたりすることが難しい。また，身体を意識して動かす姿はあまり見られない。 （５月９日）	整形外科検診の結果を知らせ，身体を意識して動かすことができるような運動を取り入れる。意識して動かしているときは，その都度，称賛する。 （５月14日）	Ａさんは身体の状態や動かし方などを確認できたことで，肩周りを意識して動かそうとするようになった。また，Ａさんを褒めることで，他の生徒も意識して身体を動かすようになった。　（５月22日）

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（前潟教諭：６／７実施　保健・体育科授業研究会「健康な身体～運動～」における手立ての意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
教師の話をよく聞いて，よく考えてから発表したり，行動したりすることができる。	CT からの「どんな気持ちになるか？」，「どんな運動があるか？」の質問に答えることができなかった。（６月７日）	「自分のこととして考えることができるように，運動をした直後に授業をしたり，映像を見せたりしては。」との意見が出された。動きを分かりやすく言語化したり，体験して考えたりできるようにする。（６月25日）	棒体操で「ギュッと握る。」，「ピシッと伸ばす。」など，音でイメージできるような言葉で伝えモデルを示したところ，肘を伸ばしたり，身体をひねったりすることができた。（７月18日，10月30日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
自分の課題となる活動を意識（理解）して，意欲的に（積極的）に取り組む。	Ｂさんは，見通しがもてなかったり，自信がなかったりして，活動を始めるとき教師に確認を求めることが多い。また，ひも通しの活動で「終わりました。」と報告することができなかった。（５月30日）	「座席配置を工夫して生徒同士，お互いが見えるようにしたらよいのでは。」とのアドバイスを受け，板書が見やすく，モデルとなる友達が正面となる座席配置にする。（６月６日）	友達の動きや板書を手掛かりにして，自分で教材・教具の準備や片付けをすることができるようになり，教師に確認を求めなくても活動を始めたり，報告をしたりするようになった。（６月６日）

Ⅲ　授業と児童生徒の変容

1　授業の変容

４月当初，本学級の生徒たちは，自分の長所や短所を理解できている生徒は少なく，課題に対する意識は低かった。そこで，自分のよさを友達の前で発表する活動を通して，友達や教師によさを認めてもらったり，再確認したりすることができるようにした。友達のよさを聞く活動は，これまであまり意識していなかった自分のよさを見付ける機会にもなり，以後，生徒たちは互いのよさを意識しながら活動に取り組むようになった。

生徒たちの実態差は大きく，手指の巧緻性を高めることや体幹を保持するための筋力向上，言語の獲得，人との関わり方の改善などに多くの課題があった。そこで，授業研究会で受けたアドバイスや感想，他の先生方の授業研究会に参加して感じたことを生かし，指導内容や学習環境，教材・教具などを工夫した。実態別，目標の達成状況に応じて教材・教具をステップアップさせていくことで，生徒自身が楽しみながら学習課題に対して意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった（写真3-13）。

また，授業研究会を通して，自立活動で行っていることを国語や音楽，体育，作業学習など他の授業で生かし，関連や広がりを確認することができたり，情報交換が行えるようになったりしたことで，授業改善がスムーズに行えるようになった。

写真3-13　ひも結びができて喜ぶＡさん

2　児童生徒の変容

Ａさんの「年間を通して身に付けさせたいこと」は「自信をもって行動に移したり，発表したりすること」とした。やればできるという成功経験を重ねるような学習活動を設定したり，たくさん褒められたりすることで自信を付けることができるようになると考えた。

そこで，学級としての集団意識を高めるとともに，全員が同じ課題に取り組める活動として，ひも通しの活動を取り入れた。実態や目標達成の状況に応じて，ひもに通す具体物を大きくて転がりにくいミシン用のボビンから小さくて転がりやすいビーズに変更して数を増やしたり，ひも通しに掛かる時間を計時して競い合ったりできるようにした。

その結果，Ａさんは友達と速さを競い合うことで「次は自分が勝ちたいです。」と次の目標を発表することも増え，友達よりも早くひも通しができたときは片付けや次の活動の準備にも意欲的に取り組むようになった。また，友達のよいところを見付けて褒める機会が増えたことで，友達からも褒められる機会が増え，自信をもって友達と関わりながら学び合う姿が見られるようになった。やりたい活動を選択できるようにしたことで，以前より意欲的に取り組んだり，他の場面でも積極的に発表したりすることが増えてきている。

Ⅳ　活用場面の様子

本学級では，給食の準備時間に「給食の学習」として，メニューや素材の栄養について知り，マナーについて考え，実際に箸等を使う学習を行った。具体例として，大皿の上に乗せた食品消しゴムを印の付いた小皿に箸やトング，指を使って移す活動を行った。食品消しゴムは，３㎝程度の扱いやすいものにし，生徒たちが好きなケーキやドーナツなどのデザート類としたことで，興味が高まり，意欲的に取り組んだ。また，持ち方を意識できるように八角箸と丸箸を準備した。食品消しゴムを箸でつまみ，落とさないように小皿の印の上に乗せることは根気と集中力も要する活動になった。Ｃさんは，給食でかき込むことが減り，正しい箸の持ち方を意識し，具材を上手につまんで食べることができるようになった（写真3-14・15・16）。

写真3-14　Ｃさん：箸の持ち方
（１年）

写真3-15　Ｃさん：食事の様子
（３年５月）

写真3-16　Ｃさん：箸の使い方
（３年11月）

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

この実践を通して，生徒の実態を正しく把握することで指導の根拠を明確にし，生徒の実態や学びの状況に合わせた教材・教具を作ることができた。しかし，生徒自身が学習したことを他教科や家庭，日常生活に生かしたことを実感できる手立ては不十分であった。

授業研究会を通して，自分の実践している内容を他教科等でも取り入れてもらえたことで，学びの方向（目標設定）の妥当性や学びの連続（他の場面へのひろがり）を確認することができた。

また，生徒の学びや成長を多くの教師で共有できるようになったことで，授業改善の達成感（教師の評価）を得ることができ，次の授業改善への意識が高まりやすくなったと感じている。

中学部　国語科

題材名「説明文を読もう」

授 業 者：内倉　広大　　前潟　久美子
対　　象：Bグループ　男子3人　女子2人
実践期間：平成２４年９月～１１月(中旬)

Ⅰ　授業の立案

1　題材の全体目標

(1) 連用修飾語を使った３語文の単文や複文を読んだり聞いたりして，理解することができる。(読む・聞く)

(2) 説明文を読み，簡単な問題に答えることができる。(話す，書く)

2 指導計画(習得型と活用型の学習活動)

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	1　文を作り，動作に表す。 (1) 連用修飾語を使った文を作る。 (2) 作った文を動作で表現する。	【習得型】 使う修飾語によって，文の意味が異なってくることを知ることができるようにする。	9
二	2　説明文を読み，簡単な設問に答える。 (1) ３文からなる説明文を読む。 (2) 設問と本文とを読み比べて(　)埋めをする。	【習得型】 設問の(　)に適切な単語を文中から抜き出すことで，前後の単語に関係があることを確認することができるようにする。	10
	3　文が示す写真や絵を選ぶ。 (1) 単文を読み，説明に合った写真や絵を選ぶ。 (2) 複文を読み，説明に合った写真や絵を選んだり，順に並べたりする。	【活用型】 文の読解をし，正しい写真や絵を選んだり，並べたりすることができるようにする。	

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

1　授業担当者で行った授業改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
文節をまとまりとして捉え，音読をすることができる。	Ｃさんは，文を読む時，文字の拾い読みや単語ごとに読むことが多く，文として読むことがあまり見られない。 (10月10日)	３語文を，文節ごとに行を変えて表記する。次の行は，前の行よりも頭出しを２文字下げて表記するようにする。(リライト教材) (10月11日)	Ｃさんは一息で文節を読むことができた。音読時間には何度も取り組む様子が見られた。授業研究会で担任は，音読が上手になっているとコメントしている。 (10月11日，16日)

2　「授業研究会（参観者）を通して行った改善

（脇教諭：７／13実施　音楽科授業研究会で出された，拍の取り方に関する意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
文字を正しく表記することができる。	ＣさんやＤさんは，記述する際に，拗音や長音の脱字をすることが見られる。（９月６日）	音楽科の授業研究会で，歌詞を理解するために単語や文節ごとの枠を設けること，音読をする学習の機会を設けることの有効性についての情報交換があり，本授業でも取り入れる。（９月６日）	Ｄさんは，枠を設けることで，一字一字をつぶやきながら書く姿が見られた。また，Ｃさんは音読で確認をすることで，脱字に気付くことができるようになってきた。（10月１日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	児童生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
簡単な設問を読み，説明文の中から（　）に当てはまる単語を抜き出すことができる。	ＣさんとＥさんは，設問の意図を読み取ることが難しく，周りを見ていたり，姿勢が崩れたりする姿が見られる。（10月10日）	設問を読んで答えるという目標についての妥当性について意見をもらい，（　）埋めの課題を設定して説明文から抜き出す学習の設定に変更する。（10月11日）	Ｃさんも説明文を自分から読み返して，意欲的な表情で学習に向かうことができた。Ｅさんは，自信をもって説明文中から答えを抜き出し，解答の際に理由を付けて答えることが見られるようになった。（10月11日）

Ⅲ　授業と児童生徒の変容

1　授業の変容

本題材の一次において，「○○さんが，ゆっくり歩く。」等の単文を読んで動作に表す学習を設定したところ，ゆっくりの意味を十分に理解できずに，普通の速さで歩いたり，力強く歩いたりする姿が見られていた。この要因として，修飾語の意味や文法構造が十分に理解できていないのではないかと考えた。そこで，修飾語を使った文を読み，動作に表す学習活動を設定したり，修飾語に囲みをし，それが掛かる述語と線で結ぶように手立て(写真3-17)を講じたりしたところ，修飾語と述語を踏まえて動作に表すことができるようになってきた。

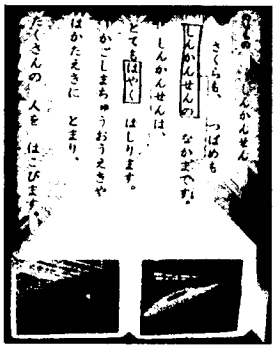

写真3-17　囲みと線を使った提示

二次の学習で板書に説明文を貼りだして学習を展開したところ，板書にあまり着目しなくなったり，発問に答えることが難しかったりする姿が見られた。そこで，授業研究会で意見をもらったり，授業改善の記録を読み返したりしてその原因の分析を行ったところ，同時に多くの情報を処理することの難しさが推測された。改善策として，パソコンを使って，着目しやすいように強調して提示したり，順序を追って説明文を読むことができるようにしたりした。その結果，生徒は画面を集中して見たり，説明文を読みながら発問に答えたりするようになった。

2　生徒の変容

Ｃさんは，学習に対して意欲的で，授業準備に率先して取り組んだり，「先生，また勉強しよう。」と話し掛けたりする生徒である。しかし，解答を間違えたり，間違いを指摘されたりすると極端に落ち込んでしまい，次の学習活動が滞ってしまう様子が見られた。本題材の中で多く見られる課題として，修飾語と被修飾語の関係の理解，記述する長音や拗音の脱字が見られることがあった。そこで，修飾語と被修飾語については，前述した修飾語の文字を囲み，述語と線を結んで提示したところ，２語のつながりを理解することができた。脱字については，授業研究会で出た意見をもとに，ワークシートに文字や単語ごとの枠を設けること，記述後に音読をして教師と一緒に確認をしてから発表をすることの２点を改善した。すると，解答を記述する際に，自分からつぶやきながら文字を記入する姿や，記述後に自分から音読をして解答を読み返す姿が見られるようになり，教師に正しく書けたかどうか確認を求めるようになった。特に，教師の確認の際には，以前のように極端に落ち込む姿から，再考したり，修正したりする姿へと変容が見られるようになってきた。

Ⅳ　活用場面の様子

本題材で身に付けさせたいことである「文を正しく理解する力」と，作業学習の中で「留意点に注意しながら活動に取り組む」ことと並行して取り組んだ。

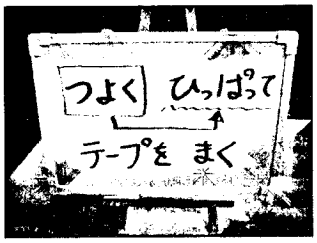

写真3-18　国語科との手立ての共有

具体例として，ＣさんのＰＰバンドにビニルテープを巻く際に力を込めて巻くという活動で挙げてみる。「強く引っ張って，テープを巻く」と留意点を掲示して目標の確認をしながら指導を行っていた。しかし，繰り返しの学習の中で手順を覚えることはできているが，テープの巻きがゆるくて不良品を出すことの改善にはなかなか結びついていなかった。そこで，国語科で確認した修飾語に囲みをし，そして修飾語と被修飾語とを線で結ぶことの有効性について教師間で情報の共有を行い，作業学習にも反映させた(写真3-18)。そして，さらに強くのイメージを高めるために，教師とビニルテープを引っ張り合い，強くと引っ張るとの感覚を体験する指導を行ったところ，「強く，強く。」と口にしながら力強く引っ張ることができるようになった。加えて，Ｃさんの様子を見てＦさんが力を込めて引っ張ろうとする様子が見られるなど，個人の成功や達成が，他の友達の意欲を育んだり目標達成へとつながったりする場面が見られた。

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

国語科における本実践のみならず，教科・領域間で取り組んだことで，本題材の目標達成のための「学び」を促進することができたと考える。実際，本題材の二次では，二つの文を読み比べてその違いをほとんどの生徒が説明することができるようになったことから，使われる修飾語やその他の単語に気を配りながら短い文を読むことができるようになってきたと評価する。また，一人の生徒の「できた」が，他の生徒に大きな影響を及ぼすことから，「自分とのかかわり」を重視して授業づくりを行うことの大切さを感じた。

一方で，「ゆっくり」など力の調整が必要な修飾語について，イメージはもつことができているが，表現することが難しい生徒もいた。さらに，体育科や自立活動といった教科等との連携を深め，言語と動作とを一致することができるように指導を深めていく必要があると考える。

中学部　作業学習

単元名「ふようまつりに向けて製品を作ろう」

授 業 者：山之口 和孝　内倉 広大　前潟 久美子

対　　象：窯業班　男子４人　女子２人

実践期間：平成２４年７月～１２月

Ⅰ　授業の立案

１　単元の全体目標

(1)　自分の作業に見通しをもち，安全面に気を付けながら意欲的に作業に取り組むことができる。

(2)　挨拶や返事，報告，質問などを場に応じて適切に行ったり，自分で考え，判断して作業を進めたりすることができる。

２　指導計画（習得型と活用型の学習活動）

次	主な学習活動・内容	習得型・活用型	時数
一	１　ふようまつりについて知る。 (1)　期日を知り，当日までの流れや販売するものを知る。 (2)　作業分担を確認する。	【習得型】 作業学習に対する見通しがもてるようにしたり，基本的な技法を身に付けることができるようにする。	３
二	２　手順を覚え，作業に慣れる。 ・　実態に合わせた製品作りを通して，手順を覚える。	【習得型・活用型】 個別の実態に合わせた製作活動を設定し，手順表や補助具を工夫することでできるだけ自分で作ることができるようにする。	１２
三	３　丁寧に効率よく作業する。 ・　早く正確な製品作りができるようになる。	【習得型・活用型】 良品を作る意識を高めて，製作活動に取り組むことができるようにする。	３０
四	４　ふようまつりで販売をする。 ・　販売準備，販売活動，反省をする。	【活用型】 自分たちの作った製品を販売することで，達成感を味わうことができるようにする。	９
五	５　販売活動の反省を踏まえて作業をする。 ・　販売の反省を生かして，新しい目標を設定したり，新しい製品を考えたりする。	【習得型・活用型】 販売活動を振り返り，どのような製品を作ればよいか考えることができるようにする。	６

Ⅱ　授業実施後の改善の経過（授業記録の一部を抜粋）

１　授業担当者で行った授業改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
自分の担当する製品作りに集中して取り組むことができる。	Ａさんは，周囲の友達の作業内容が気になり，自分の製品作りに取り組もうとしない。 （９月６日）	箸置きから，友達と同じ皿作りに変更する。 （９月11日）	Ａさんは，時々離席は見られるものの，皿を３枚作ることができた。 （９月27日）

2　授業研究会（参観者）を通して行った改善

（脇教諭：７月４日実施　音楽科授業研究会「リズムを感じよう」における友達とのかかわりの意見を参考にした。）

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
友達とのかかわりを意識して作業に取り組むことができる。	ＢさんとＣさんは，同じ製品を担当しているが，協力したり，意識したりする姿がほとんど見られない。（７月２日）	音楽科の授業研究会で友達同士でチェックをすることが学び合いにつながっているという意見が挙がったことを受け，型に泥しょうを流し込んだ後，型が汚れていないかお互いに確認し合う活動を設定する。（７月５日）	お互いに確認し合う姿は見られるようになったが，時間が掛かり，作業効率が落ちるという新たな課題が出てきた。教師が一緒にうまくできているところを確認すると友達を意識して作業に取り組むようになった。（７月10日）

3　授業研究会（授業者）を通して行った改善

目標，教えたいこと	生徒の様子	具体的改善策	改善後の様子
良品を意識して，丁寧に製作する。	『丁寧に作ろう』というめあての「丁寧に」とはどうすればよいのかイメージすることが難しい。（９月18日）	「そっと入れて，はやくこぼす」というように具体的なポイントを設定してはどうかという意見をもらった。そこで，それぞれに良品ポイントを設定し，めあてをイメージしやすいようにした。（９月27日）	めあてボードを見えるところに置き，確認しながら製作に取り組み，丁寧に製作することができるようになった。（10月11日）

Ⅲ　授業と児童生徒の変容

1　授業の変容

窯業班の生徒たちは，製品の形成工程を繰り返し経験することで，粘土や道具の基本的な取り扱いを覚えたり，形成工程に対する見通しをもつことができるようになってきたりしていた。しかしながら，材料を丁寧に扱うことができずに，何度も修正をしたり，不良品ができてしまったりすることがあった。原因として，良品を作るためにはどのようなことに気を付けたらいいかの理解が不十分であるのではないかと考えた。そこで，良品を作る際に気を付けるポイントを「良品ポイント」として個々に設定し，製作する時にイメージしやすくするようにした。その際，国語の担当と連携して文の意味を正しく理解できる力を付け，よりポイントの意味を理解し，丁寧に製品づくりができるようにした。その並行的設定において，修飾語と被修飾語を矢印で結ぶと分かりやすいという情報を共有し，良品ポイントに囲みや矢印を書き込み，めあてを意識しやすいようにした。Ｄさんは，泥しょうを型に注ぐとき型の外にこぼさないように気を付けることが難しかったり，型からバケツに泥しょうをこぼすときにふちが汚れてしまったりしていたが，『そっと入れて，はやくこぼす』というポイントを設定したところ（写真3-19），めあてを自分から確認し，意識して製作することで，不良品がかなり少なくなった。

写真3-19　めあてを意識して製作するＤさん

2　児童生徒の変容

Ｂさんは，教師や支援を多く必要とする友達とは積極的に関わろうとするが，友達同士で協力して作業に取り組む姿はあまり見られなかった。そこで，泥しょうを型に流し込んだ後，友達同士で型が汚れていないかチェックする活動を設定して，お互いに確認し合うようにした。最初のうちは，製品の仕上がりにはほとんど影響のないような細かい汚れまで指摘し合うため，時間が掛かり，作業効率が落ちてしまった。さらに，自分ではきれいにできたつもりでも友達から汚れていると指摘されることで，意欲が低下してしまう姿も見られるようになってしまった。そこで，確認をする際，一緒に教師が入り，うまくできているところを見付け，褒めるようにした。また，自立活動の担当と連携して相手の良いところを探す内容を扱ってもらうようにした。すると，教師の称賛に合わせて，「Ｃさん，上手だね。」と友達を褒め，お互いを意識しながら作業に取り組むようになった（写真3-20）。

写真3-20　友達同士確認し合う姿

Ⅳ　活用場面の様子

窯業班の製作においてよく行われるたたら作りには，平らに伸ばした粘土に型紙を置き，皿やコップの形に切り抜く工程がある。Ｅさんは，型紙に沿って粘土を切ることが難しく，製品の形がふぞろいになってしまうことが多かった。授業研究会の中で挙げられた「定規を使って線が引けるのだろうか。」という活用場面に関する意見を参考にして，数学や自立活動の中で定規を使ってまっすぐに線を引く学習活動を取り入れてもらうようにした。定規に鉛筆をしっかり当てて，まっすぐ線が引けるようになってくると（写真3-21），型紙に沿って粘土を切ることが少しずつできるようになってきた。また，型紙を意識して粘土を切ることができるようになることで，粘土切りを型紙に当てるとき垂直に立てて使うようになり，斜めになりやすかった粘土の切り口がまっすぐになり，良品がたくさんできるようになった。

写真3-21　定規を使って線を引くＥさん

Ⅴ　成果と課題，本実践に取り組んだ感想等

作業学習でよく使われるめあてに「丁寧に作ろう」がある。しかしながら，授業研究会の中で「丁寧」という概念を障害のある子どもたちがどの程度理解できるのか，目標として妥当なのか，学びの方向に関することが話題になり，授業改善を行った。国語の担当者と検討し，並行的設定を行ったり，共通作業の担当者と手立ての共有を行ったりすることで子どもたちがイメージし，意識しやすい目標設定を行うことができるようになり，製品の質，量ともに改善された。そのことが生徒自身の達成感にもつながり，意欲的に学習に取り組む姿が多く見られるようになった。

このように，授業研究会を通して教師間の連携が深まり，これまでほとんど一人で行っていた授業改善，授業づくりが自然と学部職員全員で行われるようになったことで，子どもの学ぶ姿が多く見られるようになったと感じる。そのことが授業者自身のもっと授業を良くしたいという気持ちを更に高めてくれた。これからも研究を続け，授業力を更に付けられるように努力していきたいと思う。